



あいご

NO
WAR



令和 4年 7月 1日 第4号
キッドワールドセカンドこども園
園長 高木 良司

例年よりも随分早く梅雨が明け、強い日差しが降り注ぐ夏が到来しました。

先日は、保育参観をご覧くださり誠にありがとうございました。保護者の皆様の視線が物理的にないということは、保育教諭にとってとてもさみしいものですが、園児にとっては、たくさんの視線を感じ取りにくいので、普段の園での姿をお見せできていたのではないかと思います。保護者の方からのご感想を少しご紹介します。

「普段こども園でどんな風に過ごしているかがわかり、安心しました。」「じっくり視聴できました。」「毎日楽しく過ごしてるんだろうと感ずることができました。」「ホールで歌ったり、体操したりする姿を見て伸び伸び過ごしているのが伝わってきました。」「普段見られない集団で頑張る姿に感動して、成長を感じました。」と、たくさんのご感想をいただきました。本当にありがとうございました。

さて、園の7月の大きなめあては、「好奇心」です。この季節は、水や野菜、虫などの小動物とたくさん触れ合える時期でもあります。それぞれの自然物に触れ、好奇心をくすぐり、どうしてこのようになるのか、という科学的に考える力を遊びの中から自然と学び取ることができるような環境をつくっていききたいと思います。

🌻 もうすぐたなばた 🌻

らいおんグループの作ったてるてる坊主の効果が強すぎたようで、早くも梅雨が明けました。あと2週間くらい咲き誇る予定だったばんだグループのあじさいは役割を終え、保育参観でも作成した織姫様と彦星様に成り代わりました。飾りを見ると、真剣な表情で取り組んでいた姿が脳裏に浮かんできます。



今年の7月7日にもてるてる坊主が効力を発揮し、織姫様と彦星様が会えると良いですね。



ちなみに、この飾りは、2階の階段をあがってすぐの場所に飾っています。いちご・あんずぐみ、りすグループの方は、お時間のある時にどうぞ鑑賞ください。

<今後の予定>

- 7月 4日(月) プールびらき
- 7月 4- 8日 身体計測週間
- 7月11日(月) 避難訓練(地震)
- 7月12日(火) 特別想定訓練(不審者対応)
- 7月16日(土) お弁当日 🍱
- 7月25日(月) 誕生会
- 7月26日(火) 健康診断



気になる子どもの行動と環境への配慮

東亜大学・純真短期大学客員教授、キッドワールド総合園長 牧野 桂一

幼児期の子どもたちは、成長と共にいろいろなことができるようになり、人間関係も上手に調整しているいろいろな人と楽しく関わり協力し合えるようになるのですが、時には、まわりの大人にとって困るような行動をすることもあります。そのような時に、気になる行動を修正していくのに大変苦労しているという相談がよくありますので、気になる子どもの行動と環境調整のために配慮することについて考えてみたいと思います。

① 指示に従えない子どもには子どもが理解できるように分かりやすく説明する。

気になる子どもが、気になる行動をしてしまう時の様子を見てみると、周りの人がして欲しいということが理解できていないままにしていることがよくあります。特に言葉だけで指示をすると理解するのが難しいことが多いようです。子どもは、周りの人がどう思っているか、自分はどうすれば良いかということが分からないとその場に適合した行動は取ることができません。そこで、周りにいる私たちの配慮としては、私たちの伝えたいことを身振りや手振りを交えて目で見て理解できるように視覚的な手がかりを丁寧に与えて、まず周りの人が何を言っているかということを理解できるようにします。そして、自分がしなければならないことを真似できるように、具体的な動作の見本を示すようにします。また、一度にたくさん言葉で指示せず、短い言葉で分かり易くゆっくりと指示していくようにすると、子どもは納得しながらしなければならないことができるようになっていきます。

② 癇癢やパニックを起こす子どもには気持ちの落ち着くのを待つ具体的な方法を教える。

子どもたちは、皆で遊んでいたりするときに、かんしゃくやパニックを起こして、周りの人を困らせてしまうことがあります。このようなときには、叱ったり、必要以上に話しかけたり、身体に触れたりしても子どもは落ち着くことができません。このようなときには、子どもが落ち着くまでそっとしておいてあげ、クールダウンさせながら気持ちが落ち着くようにするのを待つようにします。そして、落ち着いたら「なぜ癇癢を起こしたか」ということではなく「どのようにしたかったのか」を聞いた上で、どのようなやり方をすれば良かったのかを具体的に話すようにします。その上で、やりたいことをやるためにはどのようにすればよいかという具体的な方法を教えるようにします。

③ 子どもを傷つける言い方をしない。

子どもたちの中で時々見られるチックや夜尿などの行動について、子どもを叱るような対応を時々見かけますが、このようなことは、本人がもともと気にかけていることなので、とても傷ついてしまいます。つまり、自分でできないことに対しては叱ってはいけないのです。また、チックや吃音などは、時として気持ちを安定させるために起こることもありますので、特に気を付けてあげる必要があります。

とりわけできないことや注意をされても直すことができないような行動は、本人がもともと気にかけている行動ですし、いわれてもどうしようもないのです。このような場合は、落ち着いて冷静に見守り、子どもが叱られたとか、馬鹿にされたとか、傷つけられたと感じないような配慮をして子どもに対応することが大切です。

④ 子どもの気持ちを大切にされたアドバイスをする。

周りの大人はよく「なぜそんなことをそうしたの」と聞くようなことがあります。しかし、「なぜ」というように言われても子どもは答えられず、叱られていると思ってしまいます。このような時には、子どものすることには必ず何らかの意味がありますので、「どうしたかったの」と子どもの気持ちを大切に聞いてあげると、子どもは自分の気持ちを考えることができるようになります。

⑤ 改善を求める行動は一つのことだけに絞る。

幼児期の子どもたちは、大人ではありませんので、一度に沢山のことをいわれても、忘れてしまったり、混乱してしまったりしますので、言われたことのすべてをすることができません。したがって、改善したいことがあってもそれを一度に求めることはしないで、できるだけ一つに絞るようにします。多くのことを一度に言われても子どもは混乱し、結局、何をどうしたらいいかということがわからなくなってしまい、自分の行動を修正することができなくなってしまうのです。こうなると子どもは、挫折感にとらわれ、自尊心を傷つけられ不安定になってしまいます。

今回は、紙面の都合で、「⑥我慢するめやすを示す」、「⑦顔の近くでも物を見せたり子どもの名前を呼んだり等集中できる工夫をする」などについては、説明できませんでしたので、次回に紹介したいと思います。